

# 農業とはほぼ無縁の航空関連会社が援農にチャレンジ！ ～コロナ禍でも地域のためにできること～

## ANA新千歳空港株式会社(千歳市)



【援農に取り組んだANAの従業員】

### 【会社の概要】

- 代表取締役社長：馬場 伸裕
- 所在地：北海道千歳市美々(新千歳空港内)
- 従業員数：1,329名(2020年10月1日現在)
- 主な業務：地上支援業務(旅客対応、航空機誘導、  
運行支援、貨物ハンドリング等)
- 連絡先TEL：(0123)45-5010
- URL：http://www.ctsap.ana-g.com/

### ◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 新型コロナウイルスの影響により、外国からの航空機の離発着がなくなり、国際線を中心とした業務にあたる部署の従業員から「この時間を活かして、何か社会や地域に貢献したい。」と提案。
- ◆ 同じ頃、道庁が「地域農業における労働力確保に向けた取組の協議会」を設置したことから仲介を依頼し、関係機関や農業者と話し合い、恵庭市の野菜農家への派遣が決定。
- ◆ 8月から9月の45日間、61名の従業員が7戸の農家で延べ188人日、野菜ほ場の草取りや収穫、出荷作業等に従事。

### 【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 農作業等に対する漠然とした不安  
⇒ 農業とはほぼ無縁であったことから、何をするのか、何ができるのか不安を抱えていたが、農業者側の配慮で、簡単な説明で理解できる作業に従事。不明点等については、その場で農業者に確認を行った。
- 体調や体力的な不安  
⇒ 普段行っている作業とはまったく違うことや、夏場の炎天下での作業で体調等に変調をきたす不安もあったが、農業者側の配慮で、適度な休息と十分な水分補給の時間が設けられ、取組期間中の農作業を無事に行えた。

### 【取組の成果】

- 一時帰休により、従業員間にコミュニケーション不足が生じていたが、取組を通じた共通の話題ができたことで、会話を中心としたコミュニティが広がるようになった。
- 農作業を経験したことで、食の大切さや農業者への感謝の気持ちを持つようになった。また、地元産の農産物を手に取る機会が多くなった。
- 突然の降雨などでも別の作業に振り替える対応、誰でも同じ作業が出来るようにする手順説明、次の工程に進むために今どうすべきか考えながら作業を行うなど、仕事をするうえでの共通した考えや視野を学んだ。

【レタス収穫作業と大根の出荷作業】



### 【今後の展望】

- 本来業務が正常に戻ると援農に取り組むことは難しいと思うが、地域を支える産業を知ることは有用であるため、人との繋がりや地域貢献を考えて、機会があれば再び取組に参加することも考えていきたい。
- 異業種を経験することで得られたものを、本業に活かしていきたい。



【様々な農作業に従事しました】